

首都直下地震に備えた震災対策演習の実施

実践的な震災対策演習を通じて有事対応力を強化

日本地震再保険では、2019年度の震災対策演習として5月から11月までの期間、防災体験学習やバックアップデータセンターへの切替訓練、安否確認演習、緊急地震速報訓練等の震災対策演習を実施してきました。

当社では、第5次中期経営計画に「首都直下地震を見据えた実効性のある事業継続マネジメントの強化」を掲げ、不断から実践的な震災対策演習を通じて有事対応力を強化しています。

<主な震災対策演習>

1. 防災体験学習施設「そなエリア」での防災体験学習（5月、6月）

防災体験学習施設「そなエリア東京」を利用し、全役職員が首都直下地震発生から避難までの流れを体験しました。

2. バックアップデータセンターへの切替訓練（6月）

メインデータセンターの被災を想定し、バックアップデータセンターへの切替を行い、そのシステム環境下で通常通り業務が実施できることを確認しました。

3. 安否確認システム演習（7月、9月）

休日に安否確認システムを利用し、災害時に自動送信される安否確認メールへの応答演習を実施しました。

4. リモートアクセス演習（7月、11月）

社外よりインターネット経由でシステムに接続できるリモートアクセス環境が構築されており、全役職員が実際に自宅からアクセスし送受信の確認を行いました。

5. 緊急地震速報訓練（11月）

11月5日の津波防災の日に関内閣府、消防庁、気象庁が合同で実施した緊急地震速報の訓練に参加しました。

以上